



公益社団法人
青森県社会福祉士会

三八支部通信

第10号

令和4年7月1日発行

発行：青森県社会福祉士会
三八支部

編集：三八支部事務局

オンライン支部研修 開催報告



今年度1回目の支部研修は、三八支部では4回目となるZoomでのオンライン研修会となりました。今回は、最近よく耳にする「人生会議」をテーマに、八戸市立市民病院の救急救命センターで活躍されている近藤先生を講師にお招きし、救急救命の現場の視点から考える人生会議の意義についてお話を頂きました。

また前座として、同じく八戸市立市民病院で医療ソーシャルワーカーとして活躍され、三八支部会員でもある柳沢さんからも、実践報告をして頂きました。

会員以外の方も含め、46名もの参加を頂きました。職種も立場も違うお二人からそれぞれの現場での事例をもとにリアルな視点でのお話を頂きとても濃い研修となりました。

研修会の様子

青森県社会福祉士会 三八支部
オンライン研修会 R4年度 VOL.1

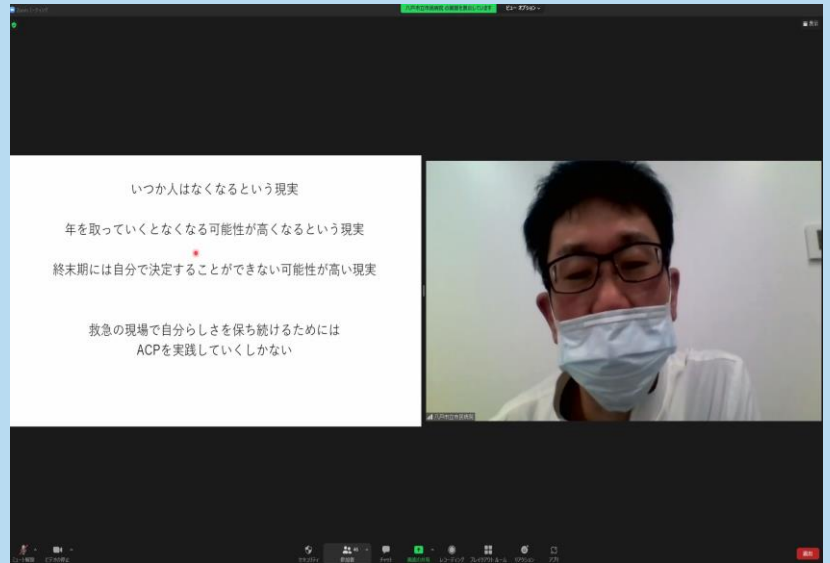
「救命救急医が考える
人生会議の意義」

令和4年6月4日(土)
14:00~15:15

講師 八戸市立市民病院 救命救急センター
医長 近藤 英史 先生

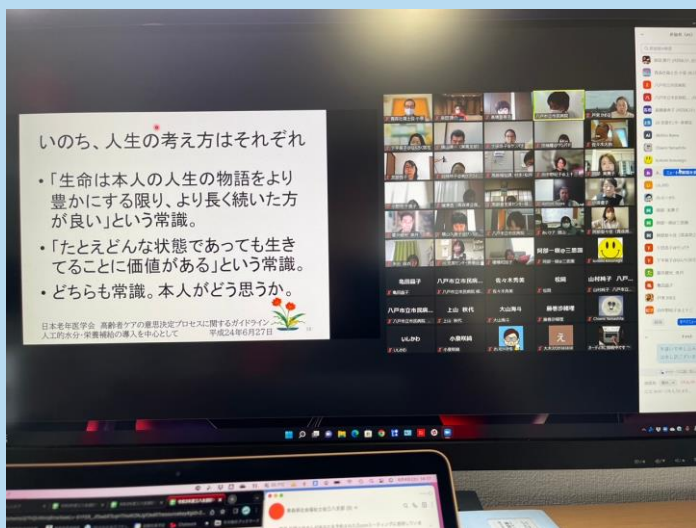
前座 八戸市立市民病院 地域医療連携室
認定医療ソーシャルワーカー 柳沢 陽紀
「人生会議のメゾ・マクロ実践報告」

おそらく人生会議は、演者の活躍しているフィールドや、職種によって、少し変わった視点になると考えています。皆さんも色々な方からのお話を聞いてみて頂ければと思います。



近藤先生の講義は冒頭からシビアな展開。救急搬送された患者は、自分で意思決定が出来ない状態。人工呼吸器、経管栄養 etc…あなたが家族だったらどういう選択をしますか？重要な決定を迫られる時は、突然やって来るんですよね。そして時間的猶予もない。「自分らしさ」を保つための人生会議（ACP）の重要性を改めて学びました。

柳沢さんの講義でも事例の紹介があり「本人にとって納得のいく医療やケア」を何度も確認していく過程がとても大切だと感じました。また諸外国との制度上の違い等も丁寧にわかりやすく説明して頂き、とても興味深かったです。



「人生会議」「ACP」と聞くと堅苦しい感じがしていましたが、普段から言葉に出して、家族や大切な人、身近な人に伝えていく事が大事だと実感しました。

小泉支部長も、ご自分の娘さんに将来介護してもらえるのか不安になったそうです（笑）

社会福祉士としてどう関わるか、それぞれの職種や立場で視点は変わるとは思いますが、まずは身近なところから始めてみませんか？

人生会議のメゾ・マクロ実践

- 2018年10月 厚労省委託研修 受講
- 2020年2月 同研修 ファシリ
- 2020年8月 石手洗地区介護予防教室
- 2021年8月 中居林コミュニティセンター介護予防教室
- 2021年11月 是川公民館介護予防教室
- 2021年11月 八戸市総合福祉会館老人クラブ連合会

